

平成18年3月期
決算説明資料

平成18年5月25日

 川重冷熱工業株式会社

平成18年3月期 決算概要

今期の売上高は、空調事業につきましては改修改造工事・メンテナンスは増加したものの機器本体が減少したことにより前期比減となりました。ボイラ事業につきましては改修改造工事・メンテナンスは減少しましたが、機器本体は大口案件の受注残高が多かった影響で増加したことにより前期比増となりました。

利益面では、売上高の増加に加え、資材費高騰等の悪化要因はありましたが、コストおよび固定費の圧縮に努めてまいりました結果、経常利益は前期比増、当期純利益は経常利益の増および5年間にわたる退職給付会計基準変更時差異の償却が前期で終了したことにより前期比増となりました。

平成18年3月期 損益計算書 川重冷熱

金額単位:百万円

	当 期	前 期	前 期 比	備 考
売 上	17,927	17,299	103.6%	空調機器、ボイラ改修改造工事・メンテナンスが減少したが、ボイラ機器と空調の改修改造工事・メンテナンスが増加し、減少分を補った。
売上総利益	4,454	4,465	99.8%	
販売費及び一般管理費	3,833	3,937	97.4%	
営業利益	620	528	117.4%	
営業外収益	18	17	105.9%	
営業外費用	97	37	262.2%	
経常利益	542	509	106.5%	
特別利益	—	—	—	
特別損失	0	207	—	退職給付会計基準変更時差異償却の終了による差異である。
税引前当期純利益	542	301	180.1%	
法人税、住民税及び事業税	386	229	168.6%	
法人税等調整額	△101	△53	190.6%	
当期純利益	257	126	204.0%	
前期繰越利益	315	289	109.0%	
当期未処分利益	572	416	137.5%	

平成18年3月期 貸借対照表



資 産

金額単位:百万円

	当 期	前 期	前 期 比	備 考
流動資産	9,796	8,806	111.2%	
現金及び預金	36	55	65.5%	
受取手形・売掛金	7,599	6,702	113.4%	大口案件の期末売上による売掛金増の影響
棚卸資産	1,825	1,729	105.6%	
繰延税金資産	292	257	113.6%	
その他流動資産	41	61	67.2%	
固定資産	4,304	3,683	116.9%	
有形・無形固定資産	2,164	2,189	98.9%	
長期繰延税金資産	1,269	1,215	104.4%	
投資その他の資産	870	279	311.8%	中国合併会社への投資の影響
資産合計	14,100	12,489	112.9%	

平成18年3月期 貸借対照表



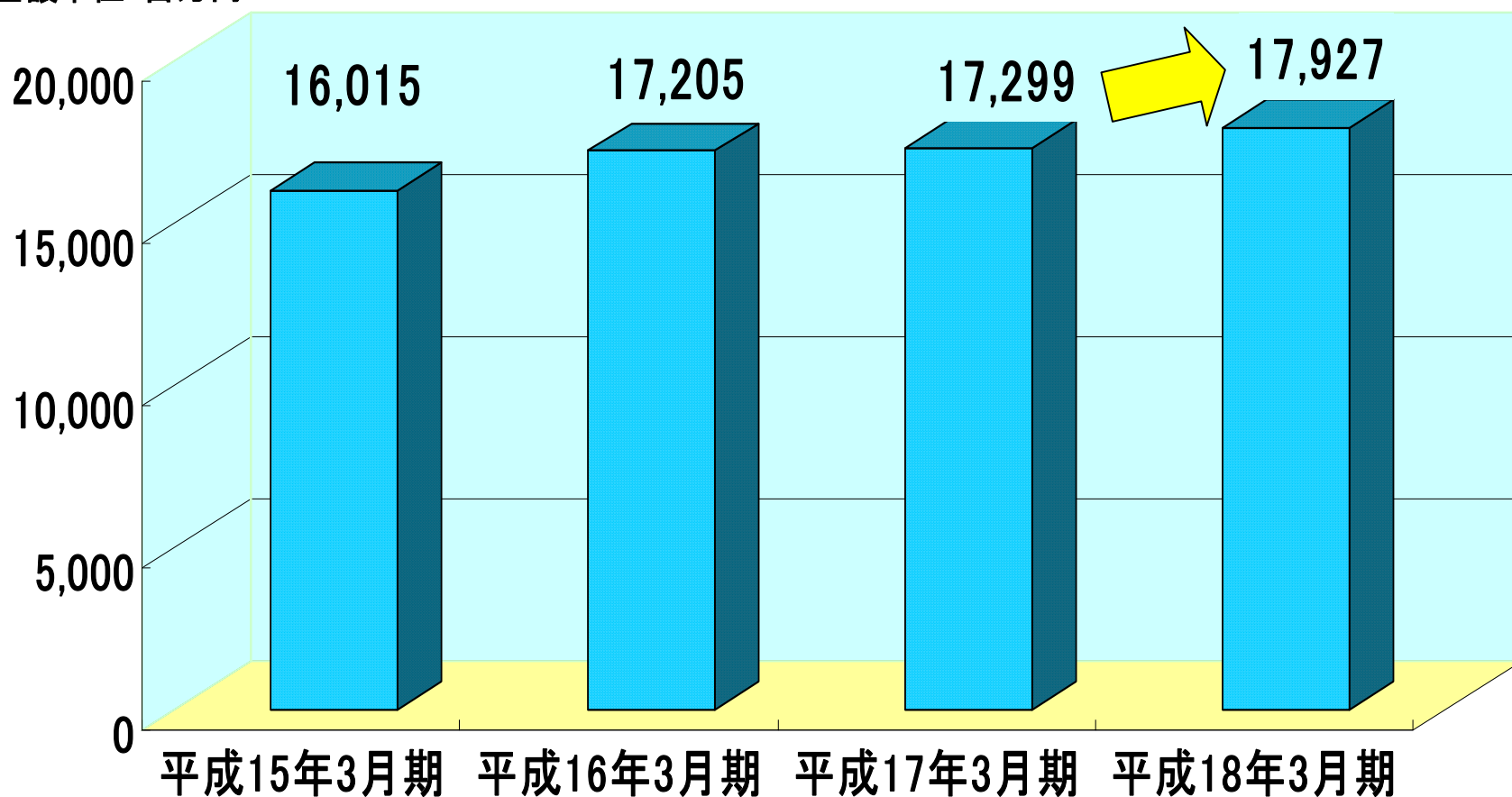
負債・資本

金額単位:百万円

	当 期	前 期	前 期 比	備 考
流動負債	6,972	5,521	126.3%	
支払手形・買掛金	4,323	4,498	96.1%	
短期借入金	1,300	0	-	中国合併会社への投資及び売掛金の増加等による
前受金	81	47	172.3%	
設備支払手形・未払金	117	43	272.1%	大型設備及び機械装置の購入による未払い残高の増加による
その他の流動負債	1,150	931	123.5%	未払法人税等の増加
固定負債	3,074	3,087	99.6%	
退職給付引当金	2,936	2,974	98.7%	
その他固定負債	137	113	121.2%	
負債合計	10,046	8,609	116.7%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,341	1,185	113.2%	
(内、当期純利益)	(257)	(126)	204.0%	
株式等評価差額金	31	14	221.4%	
自己株式	△8	△7	114.3%	
資本合計	4,053	3,880	104.5%	
負債・資本合計	14,100	12,489	112.9%	

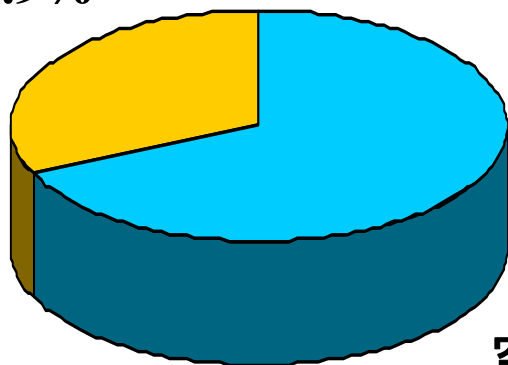
売上の推移

金額単位：百万円



売上構成比の比較

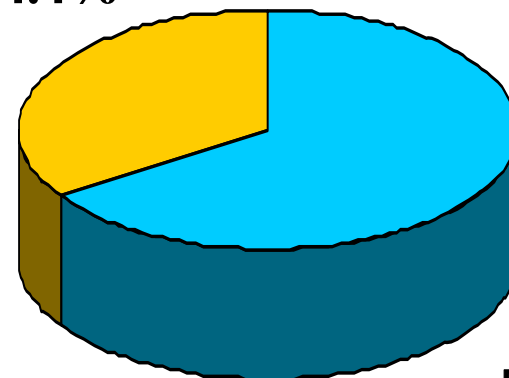
ボイラ事業
31.9%



平成17年3月期

空調事業
68.1%

ボイラ事業
34.4%



平成18年3月期

空調事業
65.6%

要因分析

- ①空調事業は機器が減少し、改修改造工事・メンテナンスは増加。
- ②ボイラ事業は機器の大口案件があり、増加し、改修改造工事・メンテナンスが減少。
- ③ボイラ事業の機器の大口案件が多かったことにより構成比が変動いたしました。

空調事業

- ①受注は順調に増加しましたが、主力機種「シグマエース」の減少により機器の売上が減少いたしました。
- ②改造工事等の増加により改修改造工事・メンテナンスは増加いたしました。

ボイラ事業

- ①大口案件の受注残高が多かったことと排熱ボイラ、貫流ボイラを中心に増加したことにより、機器の売上が増加いたしました。
- ②改造工事等の減少により改修改造工事・メンテナンスは減少いたしました。

平成19年3月期 業績予想

平成19年3月期の業績予想

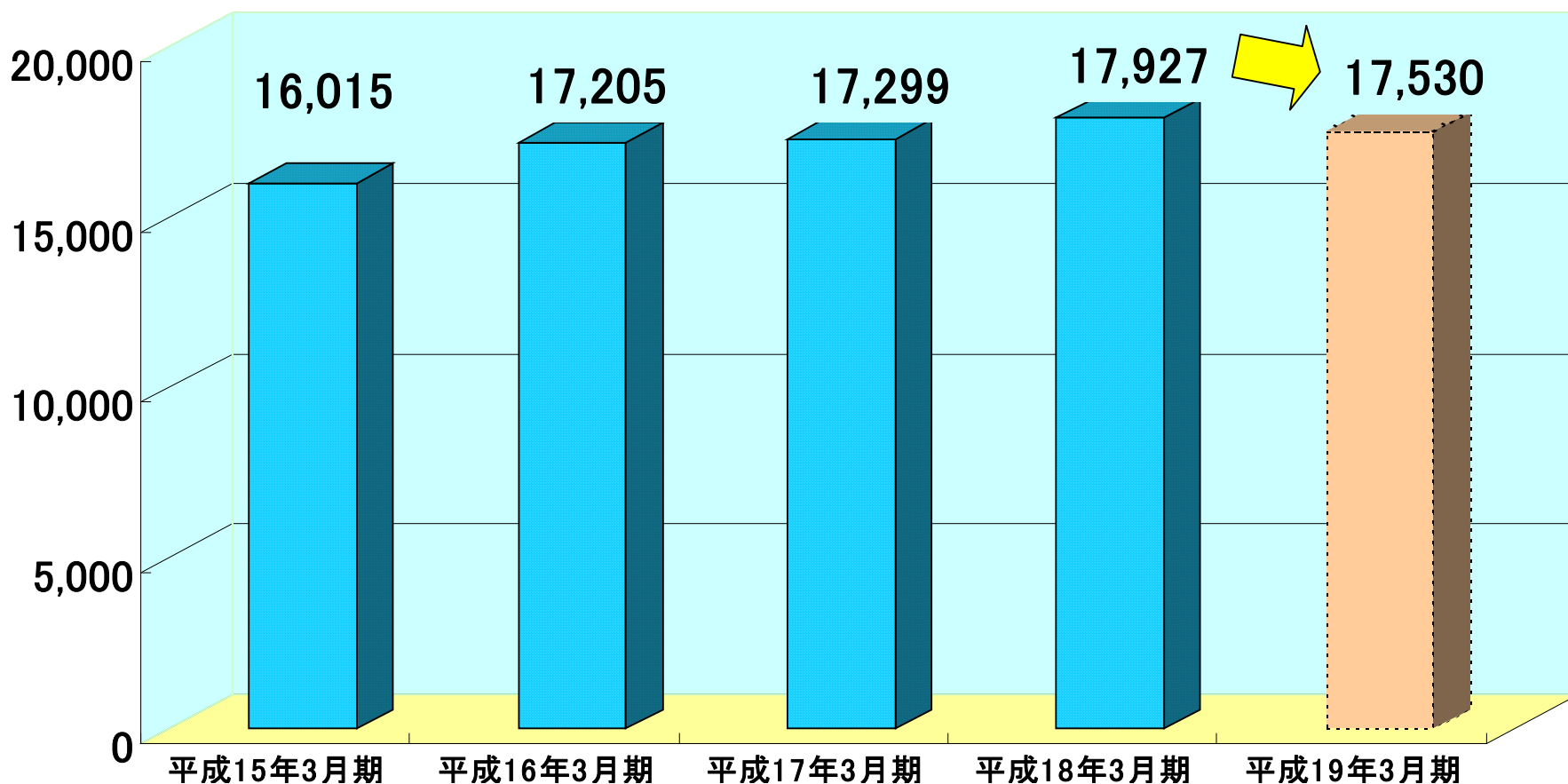


金額単位:百万円

	当 期	来期(予)	前 期 比	備 考
売 上	17,927	17,530	97.8%	受注の大口案件が減少する見込みにより減少
空調事業	11,755	11,635	99.0%	
ボイラ事業	6,171	5,895	95.5%	
経常利益	542	390	72.0%	経営基盤の整備費用、製品開発費等の増により利益が減
当期純利益	257	153	59.5%	

売上の推移(予想)

金額単位:百万円



空調事業

- ①今期に市場投入した三重効用機の拡販、吸収冷温水機の大型容量域の「シグマエース」、中型容量域の「シグマミディ」を中心にリプレース需要を確保に加えて、提案営業力の強化による付加価値の提供に努めてまいります。
- ②電話回線を使ったメンテナンスシステムの「テレメンテ」の普及およびサービスメニューの充実を図り、改修改造工事・メンテナンスの拡大を図ります。

ボイラ事業

- ①大型貫流ボイラ「イフリート」の制御性の特長、省エネルギー性を活かして受注拡大に注力してまいります。
- ②電話回線を使ったメンテナンスシステムの「テレメンテ」の普及および省エネルギー改造を中心としたサービスメニューの充実を図り、改修改造工事・メンテナンスの拡大を図ります。

参 考

当社の経営方針



当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、省エネルギーおよび余剰エネルギーを有効利用する機器の開発が進展していくものと思われれます。また、資材費の高騰により利益が圧迫され、利益確保の厳しい状況が続くと思われれます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がないと思われれます。両業界共に景気の回復により需要が活性化してくると思われれます。

本資料に関する問合せ先



川重冷熱工業株式会社
企画室 経営管理部
TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。